

04 成長企業の条件

高齢化社会を 明るく照らす、 ジェロントテクノロジーと ユニバーサルデザイン

12 ひろ・ひろ

平塚梨沙さん

(OLGA - goose candle-)

ギャップが生み出す、アートキャンドル

16 Case Study

日本瓦斯株式会社

新たな製造法の導入に貢献した
生産管理システムの導入

20

連載「ITジャーナリストの視点」
情報漏洩対策が喫緊の課題に

22 JB Group Information

被災地支援活動

「森の長城プロジェクト」

ラジオ番組「土田晃之・日曜のへそ」
ツチダIT塾の提供をスタート

「オリジナル防災リュックサック」が
グッドデザイン賞を受賞

「エコテック2014」に出展

24

未来思考

「神奈川県」

エコ住宅リサイクルバンク

古民家を「日本文化」として

未来に繋げていく

26

HITI

国民的なお煎餅・ハッピーターン、
その人気の秘訣とは？

平素より、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社は、今年4月の創立50周年を機に、次の半世紀に向けたさまざまな活動に取り組んでおります。10月より新たな試みとして、ラジオ番組内のコーナー提供をスタートしました。身近なIT活用や先進ITなどを、視聴者のみなさまへお届けしています。今後も、このようにさまざまな取り組みを推進し、当社ホームページをはじめ、公式Facebook・Twitterなどのソーシャルメディアを活用した情報発信も積極的に行ってまいります。今後とも引き続き、よろしくごお願い申し上げます。



JBCCホールディングス株式会社
代表取締役社長 山田隆司

古民家・古材を守り、再生し、 次の時代へと繋いでいく

時代とともに取り壊されてしまう古民家。職人の技が詰まった日本文化として次の時代へ残していくため、古民家・古材の再利用を推進するNPO法人 エコ住宅リサイクルバンクにお話をうかがいました。

※この冊子は再生紙を使用しています。
編集協力：株式会社 インフォバーン



西田 友紀 (blueprint)
text by Yuki Nishida
竹内 洋平=撮影
Photographs by Yohei Takeuchi



右/本文中で紹介したマンション内古民家再生の事例
左上/日本建築様式のひとつである「数寄屋建築」。「数寄屋」とは茶屋のこと。
左下/修復中の古民家。技術を持った職人を紹介するのも同法人の役割だ。



未来思考

神奈川県

エコ住宅 リサイクルバンク

身近な環境を守り、育て、
自然とともに生きる人々の
想う「未来」とは。

古民家を「日本文化」として 未来に繋げていく

全国的に減少しつつある古民家。その再生・移築や、部材等の再利用に取り組んでいるのが、NPO法人エコ住宅リサイクルバンクだ。理事長の二藤忠さんは、工務店に長く勤務しリフォームを手がけるなかで、こともなげに古民家が壊されていく現状を目の当たりにしてきたという。そのときに抱いた危機感が、同法人発足のきっかけだった。

「たとえばドイツでは、昔ながらの町並みが今でも残っていますよ

ね。古い建物に住むことがステータスにもなっている。なのになぜ日本の場合、こうも簡単に壊されてしまうのか。地球環境のことを考えると、壊して新しく建てる「スクラップアンドビルド」はもう限界にきていますし、観光客誘致という観点でも、古い建築物を残してその国ならではの風景を維持することが重要です。古民家や伝統建築を守ることは、単に廃棄物を減らせるだけではなく、文化の継承にもなる。そんな思いから、立ち上げました」

二藤さんによると、古民家の移築、また部材の再利用をした場合

でも、耐久性は新築と変わらないのだそう。特に、明治時代の政治家などが暮らした都心部、関東であれば鎌倉や葉山などの古民家は「柱の一本一本まで吟味して建てているため、木の材質も非常にいい」という。格子や透かし彫りの飾り板を取り付けた「欄間」や、あえて釘を使わず木と木を組み合わせて木栓のみで止める技法など、古民家には職人の技術が随所に見てとれる。経年による風合いも含めて、お金では買うことのできない価値だ。

「譲ってほしい人」と 「譲りたい人」の架け橋に

丸ごとの修繕・移築、リフォームだけが「古民家の再生」ではない。過去には、新築のマンション内で古民家の部屋を再現したこともあった。

「相続の関係で手放さなくてはならないが、慣れ親しんだ家なのでどうにかして残したい……というご相談でした。その土地にはマンションが建つことになってしまったため、内装のみ移設することにし、柱や床の間などに古民家の部材を再利用。お客様からすると、はじめは、お金をかけるだけの価値があるのかという不安もあったよう

ですが、結果的に「昔の空気がただよっているみたい」と喜んでくださいました」

そうして仕上がったのが、上部右に写真を掲載した部屋だ。環境を守りながら、歴史的建造物を生まれ変わらせた例として話題を呼び、多くのメディアに取り上げられた。

「一軒家からマンションに引っ越したい、家は名残惜しいが住む土地を変えたいなど、人によってさまざまな事情があると思いますが、一部分だけでも残せるんだと多くの方に知っていただき、再生・再利用される古民家が増えれば嬉しいですね」

関心がある人には、古民家・古材の紹介も行う。同法人は「譲りたい人」と「譲ってほしい人」の架け橋でもあるのだ。また、住まいや街づくり、環境をテーマにしたフォーラムも開催している。「住宅」を軸に文化や自然を守る活動は、古きよき日本を後世に伝えるという意味でも、今後ますます重要になっていくだろう。



NPO法人エコ住宅
リサイクルバンク理事長
二藤忠さん
<http://www.ejrb-y.jp/>